

2014年度

横浜自然観察の森

調査報告

20



(公財) 日本野鳥の会

目次

自然の概要	1
-------------	---

<論文>

ガビチョウ <i>Garrulax canorus</i> の堅果食観察記録:大浦晴壽	6
横浜自然観察の森で観察された地衣類: 原田 浩・安斉唯夫・越智典子・小山内行雄・坂田歩美	10

<調査記録>

鳥類の冬なわばり数(2014 年度)*: 藤村 啓まとめ・ボランティア・レンジャーなど職員	20
鳥類ラインセンサス(2014 年度)*・掛下尚一郎	21
月別鳥類出現率記録調査(2014 年度)*: 藤村 啓・掛下尚一郎まとめ・ボランティア・レンジャーなど職員	23
鳥類標識調査(2014 年度):清水武彦 他 調査協力員	25
横浜自然観察の森鳥類相調査(2014 年度): 板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・鳥山憲一・廣瀬康一・ 平野貞雄・渡辺美夫	28
オオムシクイ <i>Phylloscopus examinandus</i> の観察記録:佐々木祥仁	29
水辺の生きもの調査(2014 年度)*:掛下尚一郎	30
水生ホタル類成虫の発生数調査(2014 年度)*:古南幸弘・中里幹久	33
横浜自然観察の森のチョウ・トンボ生息調査(2014 年度): 板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・鳥山憲一・廣瀬康一・ 平野貞雄・渡辺美夫	40
横浜自然観察の森で見られる虫こぶ調査:大浦晴壽	42
草地の調査(2014 年度)~一般参加者と共に行ったバッタ類の調査~*: 瀧本宏昭・黒川マリア	54
クツワムシ分布調査(2014 年度):古南幸弘	57

横浜自然観察の森内のアカガエル卵塊数調査(2015):	
篠塚 理・杉崎泰章・布能雄二・大沢哲也	60
台湾リス個体数変化調査(2014 年度)*:掛下尚一郎	64
横浜自然観察の森における台湾リスによる樹木剥皮:藤澤 唯	66
アライグマ(特定外来生物)の防除(2014 年度):	
掛下尚一郎・古南幸弘・横浜市環境創造局公園緑地部動物園課・同みどりアップ推進課・	
横浜自然観察の森友の会等の有志ボランティア	70
横浜自然観察の森におけるアライグマによるヤマアカガエルの捕食行動の観察・撮影記録:	
掛下尚一郎・齋藤仁志・瀧本宏昭	75
環境写真記録調査(2014 年度)*:掛下尚一郎	76
希少植物調査～シラン原生地の選択的除草の効果～(2014 年度)*:	
齋藤仁志・古南幸弘・掛下尚一郎	77
「野草の調査と保護」が除去した植物(2014 年度):	
篠原由紀子まとめ・上原明子・高橋百香・八田文子・山路智恵子	81
炭小屋裏斜面地区(雑木林管理ゾーン④、⑨)植生調査と除伐計画:片岡章まとめ	84
自然情報収集調査(2014 年度)*:	
掛下尚一郎まとめ・来園者・ボランティア・レンジャーなど職員	101
横浜自然観察の森友の会 会員動向調査(2014 年度): 山口博一まとめ	102
自然観察センター入館者数(2014 年度)*:古南幸弘・掛下尚一郎	106

＜生物リスト＞

鳥類ラインセンサス調査での出現種と月ごとの平均個体数(2014 年度)*: 掛下尚一郎.....	112
月別鳥類出現率(2014 年度)*:藤村啓・掛下尚一郎	113
2014 年度 上期鳥類相調査結果一覧	
板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・鳥山憲一・廣瀬康一・	
平野貞雄・渡辺美夫	115
2014 年度 下期鳥類相調査結果一覧	
板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・鳥山憲一・廣瀬康一・	
平野貞雄・渡辺美夫	127
2014 年度 チョウ・トンボ調査結果:	
板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・鳥山憲一・廣瀬康一・	
平野貞雄・渡辺美夫	139

横浜自然観察の森で観察されたチョウ:	
平野貞雄まとめ・板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・	
鳥山憲一・廣瀬康一・渡辺美夫	142
横浜自然観察の森で観察されたトンボ:	
平野貞雄まとめ・板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・	
鳥山憲一・廣瀬康一・渡辺美夫	143
横浜自然観察の森で確認された魚類と甲殻類(2012-2014 年度): 瀧本宏昭	144
「野草の調査と保護」の自然情報提出記録(2014 年度):	
篠原由紀子まとめ・上原明子・高橋百香・八田文子・山路智恵子	145

＜投稿される方・引用される方へ＞

投稿される方へ	158
「かんたんな報告」の書き方	158
「くわしい報告」の書き方	161
本調査報告書を利用・引用される方へ	162

* を付した報文は、「2014 年度横浜自然観察の森環境調査報告書((公財)日本野鳥の会)」から、委託主の横浜市環境創造局みどりアップ推進課の許可を得て引用したものです。

自然の概要

古南幸弘

1. 地理的位置

横浜自然観察の森は、多摩丘陵から三浦半島に続く多摩・三浦丘陵群(通称「いるか丘陵」)の半ばに位置し、横浜市の南端、三浦半島の北端にあたる。面積 45.3ha の敷地の東側と西側は横浜横須賀道路と環状4号線により区切られ、北側を住宅地に囲まれ、北東側は4つの市民の森(瀬上、氷取沢、釜利谷、金沢)に連なっている。横浜自然観察の森は、周囲の市民の森等の緑地と共に、円海山・北鎌倉近郊緑地保全地区(面積 1,096ha)に指定されている。南側は鎌倉市の歴史的風土保存区域や逗子市の池子の森とつながっており、これらを含めると面積約 3,000ha の緑地が続いている。この緑地は、神奈川県東部では随一の大規模緑地である。

2. 地形・地質・土壌

標高は 50～150m、地形は山地性の丘陵地で、急峻で起伏に富む。園内に境川水系の柏尾川の支流であるいたち川の源流の一つがあり、これにより刻まれた谷が敷地を東西に分けている。東側には小溪谷状の入り組んだ支谷が発達する。西側は過去の開発により、平坦な部分が造成されている。

地質は野島層を基盤としている。これは第三紀鮮新世末期に海底に堆積した、パミスやスコリアなどの火山噴出物を多量に含む、凝灰質な砂質泥岩や泥質砂岩などからなる上総層群のうちの一つである。この上をローム層が不整合に覆っている。

土壌は褐色森林土に分類される。丘頂部には土壌の厚い堆積が見られるが、斜面では土壌が流出しやすく、場所によっては基盤が露出し、植物の生育にはきびしい条件となっている。広場部分は過去に造成のために表土がはがされ、その後ほとんど堆積していない。



図：概要図

3. 植生・植物相（開園以来、維管束植物 900 種以上を確認）

気候帯は暖温帯に属し、極相は照葉樹林(シイタブ林)であるが、現在は断片的に残存するのみで、森林の大部分は落葉広葉樹の二次林(ヤマザクラ林、コナラ林、ミズキ林、イロハモミジケヤキ林等)となっている。スギ林、ヒノキ林、モウソウチク林といった人工林も小面積見られる。照葉樹林帯としては北部に位置することもあるが、高木、低木、林床植物ともに構成種数はそれほど多くないが、林床には数種のラン科植物も見られる。基盤岩上にあるコナラ林と混交林の林床に、山地性のカントウカンアオイ、スハマソウが隔離的に分布する。低温の地下水の浸潤する溪谷内では、ウワバミソウ、ヤブデマリ等、冷温帯に属する種が生育する。

崖上には多湿を好むケイワタバコの群落が見られる。地下水のしみ出す凝灰質泥岩上の小湿地ではシランの群落が見られる。

広場や草地は過去の造成の影響を受けている個所がほとんどで、ススキ群落、シバ草地等が草刈りの管理により成立しているが、元々の植生が残存していると思われる個所もあり、シラン等の草地性希少種も少数見られる。ミスキの谷の池、水鳥の池、ヘイケボタルの湿地は施設整備時に環境創出のために造成された湿地で、栄区周辺や県内の湿地から約 35 種の水生植物を移植している。

4. 動物相

①脊椎動物（約 180 種の在来種を確認）

鳥類はこれまでに 152 種の在来種が記録されており、このうち約 20 種が園内、または周辺で繁殖している。この中には都市周辺では少なくなったフクロウやホトトギス、カワセミ等が含まれている。渡り鳥の中継地としての価値も高く、1987 年には日本で

初めてウタツグミの渡来が観察された。哺乳類ではタヌキ、イタチ、ノウサギ等の中型種、アズマモグラ、アカネズミ等の小型種が生息する。爬虫類はニホンマムシ等のヘビ類やニホンカナヘビなど、両生類ではヤマアカガエルなどのカエル類が生息する。魚類はモツゴ、アブラハヤ等が記録されている。

外来種として、コジュケイ、ガビチョウ等(鳥類)、タイワンリス、アライグマ、ハクビシン等(哺乳類)、ウシガエル(両生類)等が生息しており、一部の種類は数が増えている。

②昆虫 (2,453 種を確認)

三浦半島と共通する暖地性、海洋性の種が多いが、北部の多摩丘陵と共通する山地性の種も見られ、多彩な昆虫相を形成している。暖地帯性種では、クチキコオロギ、ズビロキマワリモドキ等の分布の北限に近いと考えられる。山地性種ではウシカメムシ、ヤツメカミキリ等が観察されている。樹林地にはアカシジミ等の低地落葉樹林性の種が生息、流水には都市開発で激減したゲンジボタルやアサヒナカワトンボも見られる。開園時に創出された湿地には止水性のトンボ類や、近隣の生息地から移入放流したヘイケボタルが増えている。草地は人為的な植生や草丈の管理により、様々なバッタ目が生息しており、カヤヒバリ、エゾツユムシ、カヤキリ、の生息は分布上注目される。ススキ草地にはジャノメチョウが多く見られる。

論文

ガビチョウ *Garrulax canorus* の堅果食観察記録

大浦晴壽(横浜自然観察の森友の会カワセミファンクラブ)

はじめに

外来種ガビチョウ *Garrulax canorus* は本来の生息地である中国や東南アジアでは雑食性であり、昆虫などの動物質の場合は飛び掛かり採食をする。木の実など植物質の餌も多く摂取しており、日本での観察結果によれば、アケビ、ヌルデ、モミジイチゴの実の採食が山口により報告されており、東郷らは八王子市においてマグワ、ヤマグワ、ヤマザクラ、ヒメコウゾ、ミズキ、クマノミズキの6種の樹木の実の採食行動について詳細な観察結果を報告している。これらは全て液果に属する実の報告だが、ドングリなど堅果類の採食については宮澤らによるポスター発表があるが、その報告例は少ない。

私は2013年11月8日以降にガビチョウが地面上から、あるいは地表に半分埋もれている堅果であるコナラの実をつつき出し、その場で殻をつつき割って採食、あるいはそのまま持ち去るのを複数回目撃し、その状況を写真撮影、また動画撮影したので以下に報告する。

観察場所

横浜自然観察の森(横浜市栄区)園内の複数ヶ所でガビチョウの堅果食を目撃したが、以下の報告事例の場所は全て園内ミズキの道7番周辺である。(観察距離は全て概ね10m前後)

観察記録

初回観察事例 2013年11月8日 7時30分～

ガビチョウが未舗装の歩道上で何かをつついていて動画を2本(長さ計66秒)撮影した。その画像を確認すると、ドングリをつつき割って中身をその場で食べたり、ドングリを持ち去っていた。

2回目観察事例 2013年11月15日 7時58分～

複数のガビチョウがやはりドングリをつついたり持ち去ったりする場面の動画を3本(計73秒)撮影した。この日に、ガビチョウが歩道に半分以上埋もれているドングリを、嘴でつつき出す動作を行うのを複数回確認した。埋もれている実を8時8分26秒からつつき出し、持ち去るまで、写真撮影したので写真1～4に示す。



写真1 2013年11月15日8時8分26秒



写真2



写真3



写真4 2013年11月15日8時8分32秒

写真1にはガビチョウの目の下辺りの地面から顔を覗かせているドングリの一部が写っている。その直後、嘴を使い2回程度の軽いつつき出し動作で写真2の様にドングリを地面上に掘り上げた。写真3で実を咥え上げ、その後写真4の様にしっかり咥えると背後の下藪へ実を持ち去った。その間6秒程度。地面からのドングリのつつき出しは1秒程で、ガビチョウにとっては慣れた簡単な動作の様に感じた。

3回目観察事例 2013年11月23日 7時57分～

この日は3羽以上のガビチョウが歩道上に現れ、ドングリをつつき出し、持ち去る様子が再確認できた。動画は2本（計4分56秒）撮れた。

4回目観察事例 2013年11月26日 8時53分～

この日は10分間に3回ドングリを地面からつつき出す様子が観察できた。動画も3本（計2分21秒）撮れた。

5回目観察事例 2014年10月25日 7時20分～

初回観察の翌年10月にも同じ場所でドングリの殻割りによる採餌や実の持ち去りを確認した。動画は3本（計75秒）撮れた。写真5～6にはドングリの殻割りの様子を動画の切り出し画像で示す。



写真5 2014年10月25日 7時22分



写真6 写真5の直後

ドングリの殻を割る場合は、写真5に示す様に背伸びする様に全身を伸ばし、頂点の位置から体重を乗せ、殻を目掛け、嘴を垂直に振り落とす。写真6を見ればそのまま垂直に殻に打撃を与えている事が分かる。この時以外も含め、多くの観察によれば、この全身を使った打撃を持ってしても、ドングリの殻は簡単には割れない。時に10回以上の打撃でも割れず、あきらめたり他の実に関心を移したりしている様子も見て取れた。

6回目観察事例 2014年11月6日 8時34分～

この日の観察ではドングリを持ち去る動画を一本撮ったが(6秒)、この直後の降雨により早々に撤収した。

考察

食べていたドングリ(堅果類)は、ミズキの道7番周囲の樹種、歩道に落ちていた実の大きさ、形状、そして殻斗の形状、模様から、多くはコナラ *Quercus serrata* の実と判断した。動画を解析するとコナラの実を含め4種類の実が確認されたが、コナラの実以外と思われるものも小型のコナラの実あるいはその断片であるかもしれず、明確に他の種類と判断できるものは確認できなかった。

観察地点近辺の歩道の土質は水分を含みかなり軟弱であり、踏むと低反発枕を押したような感覚を覚える。従って、歩道上に落ちているドングリなどの堅果類は、人の踏圧により容易に土中へめり込む。散見される土中に半分埋まったドングリは、特に密集している様子も無く、ガビチョウが意図的に埋めたものではなく、歩道を歩く人に踏まれてめり込んだもの、と判断した。

観察によれば、歩道上やその近辺にはコナラの実がパラパラと多数落ちており、わざわざ埋もれたものを掘り出す必要性を感じなかった。それにも拘らず、2回目～4回目の観察事例で、埋もれた実の掘り出しを観察している。その後の調査で、人に踏まれて歩道にめり込んだ実の殻は、めり込む際にその殻が割れて(パリッと乾いた音がしてクラックが入る)いるものが多い事が判明した。

ガビチョウが殻を割る際に、多大な労力を掛けている事を勘案すると、この労力を低減さ

せる目的で“好んで”埋もれたドングリ（既にクラックが入っている可能性が高い）を掘り出している可能性が考えられるが、推測の域を出ない。

今後の課題

ガビチョウがコナラの実を食べている事は確認できたが、他の堅果類も食べているのか、まだ観察できていない。また食べている時期（期間）は私の観察では10月下旬～11月下旬までだが、他の時期にも食べているのか、観察継続が必要と考える。（11月下旬以降もドングリの実は多く落ちているが、まだ食べているのをその時期以降に観察していない。）

更には、コナラの実をその場で食わず、近くの下藪へ持ち去る事も多いが、その実をどうしているのか、観察が必要である。

引用文献

山口喜盛 「神奈川県におけるガビチョウの野生化について」 BINOS vol.7,p.43-50,2000

東郷なりさ、岡久雄二、星野義延 「鳥散布樹木の形態と鳥類の採餌行動」 Strix

vol.28,p.59-70,2012

Eri Miyazawa, Tadashi Suzuki : “The ecology of the introduced Chinese Hwamei in Japan”, 26th International Ornithological Congress, 18-24 August 2014, at Rikkyo univ. Tokyo (p14-009)

横浜自然観察の森で観察された地衣類

原田 浩¹・安齊 唯夫²・越智 典子³・小山内 行雄^{2・3}・坂田 歩美⁴

Hiroshi HARADA, Tadao ANZAI, Noriko OCHI, Yukio OSANAI and Ayumi SAKATA: Lichens
observed at Yokohama Nature Sanctuary, central Japan

¹千葉県立中央博物館, ²日本地衣学会地域活性化委員会, ³千葉県立中央博物館市民研究員, ⁴
千葉県立中央博物館共同研究員

はじめに

地衣類は、身近な環境に出現し、肉眼で確認できる大きさであるにもかかわらず、その存在が意識されにくい生物の代表と言える。しかし、大気汚染の指標生物として利用されたり、二次代謝産物の利用の可能性が認められており、地域の生物多様性を構成する一員として見過ごすことはできない存在である。横浜自然観察の森では、従来は地衣類に関する情報は全くなかったが、2014年10月25日、日本地衣学会主催の地衣類の観察会「第39回青空地衣教室」が開催された折、34種類が確認された。このことは、日本地衣学会ニュースレター（原田他 2015）に報告したが、横浜自然観察の森の利用者が利用しやすいように、本誌のために加筆修正したのが本稿である。

地衣類相概観

自然観察センターから森の家口〔タンポポの道（終）～(10)〕にかけての舗装道路沿いでは、炭焼き小屋の掲示板の板葺屋根上にハナゴケ属のヒメジョウゴゴケとヒメレンゲゴケ（図 2A）が認められた。クヌギの林においては、ウメノキゴケ科の葉状地衣（図 1A-C 等）の多くの種が認められた。ただし、これらの生育には若干暗すぎる印象を受けた。県内では箱根と丹沢山地のみから記録されているハコネゴンゲンゴケが認められた。痂状地衣も多数認められたが、なかでもニセザクロゴケ属の一種（図 2F）の発見は特筆に値する。タンポポの道（5）付近のタブノキの葉の上に、アオバゴケ（図 2G）の着生が多数認められた。落葉した葉で確認されたのだが、もともとは生葉上に生育する種であり、落葉した状態でしばらく生存し続けたものである。ヘイケボタルの湿地の周辺〔ミズキの道（4）～（6）〕のサクラ等の比較的日当たりの良い樹幹上にはウメノキゴケ科などの葉状地衣が多数生育していた。県内では丹沢山地のみから知られるコフキチョロギウメノキゴケ（図 1E）や、センシゴケ（図 1D）が認められたことは興味深い。

出現種の一覧を「観察リスト」に示した。出現種全体の傾向としては、暖温帯を代表する種が圧倒的に多い。樹皮着生では、葉状のウメノキゴケ科ではウメノキゴケ、ナミガタ

ウメノキゴケ， マツゲゴケ， トゲウメノキゴケ， ムカデゴケ科ではコフキヂリナリア， ムカデコゴケがこれにあたる．樹皮着生の痂状地衣では， チャシブゴケ科のナミチャシブゴケとコナイボゴケ， モジゴケ科ではモジゴケ属， コフキモジゴケ， ホシダイゴケである．ハコネイボゴケは岩上に， コナセンニンゴケは岩上ないし土上に生育する， 暖温帯の代表的な種である．また， 生葉上生種のアオバゴケも同様である．キウメノキゴケとセンシゴケについては， 分布の中心は冷温帯だが， 暖温帯にも出現する種である．

地衣類相調査における課題

地衣類を確実に同定するには， 標本を採取し， 実験室内で顕微鏡を用いて検査する必要がある．また， 後年に再検討しようとしたときに， 証拠標本は必須である．今回示したリストは現地での同定に基づくものであることから， 同定精度に問題が残る．従って， 確実なリストにしていくためには， 証拠標本を採集していくことが求められる．

地衣類は， 国内から 1600 種余りが記録され（原田他 2004）， このうち 253 種が神奈川県から報告されているが（山本 2012）， 神奈川県産地衣類のリスト完成には程遠い状況と考えられる．しかも， 県内全域に及ぶ総合的な調査はなされていないため， 県内におけるそれぞれの種の分布に関する情報はごく限られたものである．その一方で， 開発や環境汚染など様々な要因により， 地域的な集団が消失している可能性は， 他の生物群と同様に存在している．従って， 地域における地衣類の出現種を明らかにすることは急務である．その方法として， 上に述べたとおり， 標本に基づく調査は必須である．

従来， 生物の分布調査といえば， 3 次メッシュのメッシュ番号による位置情報の記録が主流を占めていた．しかし， そこで採用されていた測地系（通称， 旧測地系）が， 世界的に通用している測地系（通称， 新測地系）から約 400m ずれていることが判明した．現在では， 国土のあらゆる統計データが新測地系において集計されているため， 生物の分布情報も， 遅かれ早かれ新測地系に移行しなくてはならないことは明らかである．このため， 産地の位置情報は新測地系に基づく緯度経度情報を記録することが求められる．緯度経度をもとに， 計算式により新測地系・旧測地系ともメッシュ番号を割り出すことができる．緯度経度はウェブ上の google map や， 国土地理院の地図からも取得できる．

以上のことを考慮した地衣類相調査が， 横浜自然観察の森において実施されることが期待される．

観察リスト

場所：神奈川県横浜市栄区上郷町／横浜自然観察の森．

観察日：2014 年 10 月 25 日．

リストにおける種の配列は， 吉村他（2006）によって示された分類体系に従い， 門， 綱， 目， 亜目を配列し， 亜目（亜目がない場合は目）内では科名のアルファベット順とし， 科

内は学名のアルファベット順とした。それぞれの種について、和名（和名がなければ学名）の後に、生育基物（今回、生育が確認された基物に限る）、生育形等を示した。生育基物は、岩は岩石上、樹皮は樹幹や枝などの樹皮上を指す。生育形は地衣の体の大まかな形の違いによる3大別、つまり葉状（ようじょう）、樹状（じゅじょう）、痂状（かじょう）である（中村他 2002）。更に、同定のポイントなどを示した。

子囊菌門, 子囊菌綱

Arthoniales ホシゴケ目

Arthoniaceae ホシゴケ科

Arthonia sp.? ホシゴケ属の一種?。樹皮, 痂状。

Roccellaceae リトマスゴケ科

Opegrapha sp. キゴウゴケ属の一種。樹皮, 痂状。モジゴケ属と同様に子器（胞子を作る器官）が黒い線状である。モジゴケ属の地衣体は灰白色であるため、褐色の樹皮上では目立つが、本種の地衣体は褐色であるため目立たない。しかも子器はモジゴケ属よりも小さい。生態的にもモジゴケ属は比較的明るい樹皮上を好むが、本種は日陰に限られる。

科不明

Arthothelium sp. ゴマシオゴケ属の一種。樹皮, 痂状。

Lecanorales チャシブゴケ目

Cladoniineae ハナゴケ亜目

Bacidiaceae イボゴケ科

Bacidia hakonensis (Müll. Arg.) Yasuda ハコネイボゴケ。岩, 痂状。岩上に広がる緑がかった地衣体に、直径約 1mm のほぼ黒色の円盤状の子器（胞子を作る器官）が散在あるいは密集する。

Cladoniaceae ハナゴケ科

Cladonia humilis (With.) J.R. Laundon ヒメジョウゴゴケ。木造物, 樹状。鱗片状の基本葉体から高さ 1 cm程のジョウゴ形の子柄が伸びる。同様の形態を示すハナゴケ属は国内には複数知られているが、この集団は本種である可能性が極めて高い。

Cladonia ramulosa (With.) J.R. Laundon ヒメレンゲゴケ (図 2A & B)。木造物・地上, 樹状。ヒメジョウゴゴケより基本葉体が小さく目立たず、子柄はほぼ棒状に伸び、その先端はごく小さな皿状ないし椀状の構造で終わる。

Porpidiaceae ヘリトリゴケ科

Porpidia albocaerulescens (Wulfen) Hertel & Knoph ヘリトリゴケ. 岩, 痂状. ハコネイボゴケに似るが, 地衣体は灰白色で, 子器の中央部 (子器盤) が灰色, 縁がほぼ黒色である.

Lecanorineae チャシブゴケ亜目

Lecanoraceae チャシブゴケ科

Lecanora megalocheila (Hue) H. Miyaw. ナミチャシブゴケ. 樹皮, 痂状. 子器の縁は地衣体と同じ灰白色か灰緑色, あるいはやや白く, 子器盤が赤褐色である.

Lecanora pulverulenta Müll. Arg. コナイボゴケ. 樹皮, 痂状. 地衣体と子器縁部がやや黄色を帯びた灰緑色.

Lecidella sendaiensis (Zahlbr.) Knoph & Leuckert. 樹皮, 痂状. 子器は暗褐色でとても小さい (直径 0.3mm 以下).

Scoliosporum chlorococcum (Graewe ex Stenh.) Vězda? ニセマキミゴケ? 樹皮, 痂状.

Rombaldia sp. ニセザクロゴケ属の一種 (図 2F). 樹皮, 痂状. 子器 (子器盤だけでなく縁部も) が鮮やかな橙赤色である.

Parmeliaceae ウメノキゴケ科. 葉状の種のみが確認された. 本地域の葉状地衣は本科によって代表される. 今回確認された種はいずれも樹皮上だったが, いずれも岩上にも生育が可能な種である.

Canoparmelia aptata (Kremp.) Elix & Hale or *C. texana* (Tuck.) Elix & Hale シラチャウメノキゴケあるいはタナカウメノキゴケ. 樹皮, 葉状. 両種は形態が酷似するため, 確実に同定するには化学成分を検査する必要がある.

Flavoparmelia caperata (L.) Hale キウメノキゴケ. 樹皮, 葉状. 今回確認されたウメノキゴケ科の中では, 他の全種が灰緑色か灰白色であるのに対し, 本種は多少とも黄色を帯びることで容易に区別ができる.

Hypotrachyna revoluta (Flörke) Hale? ハコネゴンゲンゴケ? 樹皮, 葉状.

Menegazzia terebrata (Hoffm.) A. Massal. センシゴケ (図 1D). 樹皮, 葉状. 地衣体は空洞で裂片はストロー状であり, 表側のところどころに円形の孔が空いていることで容易に区別できる.

Myelochroa entotheiochroa (Hue) Elix & Hale クズレウチキウメノキゴケ. 樹皮, 葉状.

Myelochroa metarevoluta (Asah.) Elix & Hale コフキチョロギウメノキゴケ (図 1E). 樹皮, 葉状.

Parmelinopsis minarum (Vain.) Elix & Hale トゲウメノキゴケ. 樹皮, 葉状. ウメノキゴケと同様に裂芽をつけるが, 裂片の幅がはるかに狭い (通常は幅 1 – 3 mm) ことで容易に区別できる.

Parmotrema austrosinense (Zahlbr.) Hale ナミガタウメノキゴケ (図 1C). 樹皮, 葉状. ウメ

ノキゴケに似るが、裂芽はない。裂片の縁に沿って粉芽（粉状の栄養繁殖散布体。つまりむかごのようなもの）を生じ、そこがフリル状に大きく波打つ。

Parmotrema tinctorum (Nyl.) Hale ウメノキゴケ。樹皮，葉状。地衣体は大きく，裂片は丸く大きく（幅 1cm 程度），地衣体の中央部を中心に，表側に細かな顆粒状の裂芽を密生する。裏側は周辺部はやや淡い褐色で，つるつるしている。

Rimelia clavulifera (Räsänen) Kurok. マツゲゴケ（図 1A & B）。樹皮，葉状。ウメノキゴケと同様に比較的大きいが，裂片の先端や縁が斜上するため，より立体的に見える。地衣体中央部の裂片の縁に，直径 1 mm 位の球形あるいは枕状の白い粉芽塊（粉芽の集合）をつける。地衣体周辺部の縁にはシリア（黒いまつ毛のような構造）を生じる。

Physciaceae ムカデゴケ科。 3 種とも葉状だが，概してウメノキゴケ科よりも小形のものが
多い。

Dirinaria appplanata (Fée) D.D. Awasthi コフキヂリナリア（図 1F）。樹皮，葉状。ほぼ円形の輪郭は常に明瞭で，基物に固く密着するため，葉状であることが判りにくい。丸い粉芽塊を点在する。

Phaeophyscia rubropulchra (Degel.) Essl. コナアカハラムカデゴケ。岩，葉状。地衣体は直径 1 cm 程度と小さいことが多い。髓層に橙色の色素を含み，地衣体に傷付きむき出しになるとルーペで判別できる。

Physciella melanchra (Hue) Essl. ムカデコゴケ（図 2C）。樹皮・岩，葉状。地衣体は直径 1 cm 程度と小さいことが多く，狭い裂片の中央部に丸い粉芽塊をつける。

亜目不明

Icmadophilaceae センニンゴケ科

Dibaeis sorediata Kalb コナセンニンゴケ。岩あるいは土，痂状。地衣体は灰緑色で目立たないが，直径 1 mm 程度のほぼ球形の白い粉芽塊を点在するので野外でも容易に区別できる。子器も直径 1 cm 位で，美しいピンク色だが，今回は確認されなかった。

Pertusariales トリハダゴケ目

Pertusariaceae トリハダゴケ科

Pertusaria pustulata (Ach.) Duby オリーブトリハダゴケ。樹皮，痂状。キウメノキゴケやコナイボゴケと同様に，地衣体はやや黄色を帯びる。地衣体表面はつるつるとして光沢がある。

Ostropales オストロパ目（モジゴケ目）

Graphidaceae モジゴケ科。 本科の子器は，円盤状ではなく，細長く線状に地衣体表面上に伸びる。

Graphis sp. モジゴケ属の一種 (図 2D). 樹皮, 痂状. 子器が黒い細い線状であることから今回確認された本科の他属とは異なる. 本属は熱帯に分布中心があり, 国内の暖温帯には多数の種が記録されている. 図 2D はニセモジゴケ *G. handelii* Zahlbr. に見えるが, 本属を確実に同定するためには子器の切片と胞子の検査が必要である.

Phaeographis pruinosa M.Nakan. コフキモジゴケ. 樹皮, 痂状. 子器も地衣体も灰白色であり, 区別しにくい.

*Sarcographa tricos*a Müll.Arg. ホシダイゴケ (図 2E). 樹皮, 痂状.

Trichotheliales マルゴケ目

Strigulaceae マンジュウゴケ科

Strigula smaragdula Fr. アオバゴケ (図 2G). タブノキの葉, 痂状. 葉の表側のクチクラ下に淡緑色の小さな地衣体を生じる. 子器は直径約 1 mm の黒色の膨らみである.

目不明

Lepraria spp. レプラゴケ属の一種 (3 種類). 樹皮あるいは岩, 痂状. 地衣体全体が粉芽でできている仲間で子器は生じない. 種によって地衣体の色や粉芽の集合状態が異なる. 日本産本属の分類は十分明らかになっていない.

引用文献

- 原田浩・安齊唯夫・越智典子・小山内行雄・坂田歩美. 2015. 第 39 回青空地衣教室 (横浜) で観察された地衣類. 日本地衣学会ニュースレター (129): 484.
- 原田浩・岡本達哉・吉村庸. 2004. 日本産地衣類および関連菌類のチェックリスト. *Lichenology* 2: 47-165.
- 中村俊彦・古木達郎・原田浩. 2002. 野外観察ハンドブック 校庭のコケ. 191 pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 山本好和. 2012. 都道府県別地衣類チェックリスト (7). 関東地方 (千葉県・栃木県を除く). *Lichenology* 10: 209-283.
- 吉村庸・原田浩・岡本達哉・松本達雄・宮脇博巳・高橋奏恵. 2006. 日本産地衣類の分類体系. *Lichenology* 5: 95-110



図1. 樹皮上に見られたウメノキゴケ科 (A-E) とムカデゴケ科 (F) 葉状地衣. A, クヌギの幹に着生するマツゲゴケ *Rimelia clavulifera* 等. B, マツゲゴケ. 裂片の縁に丸い粉芽塊をつける. C, ナミガタウメノキゴケ *Parmotrema austrosinense*. 粉芽を付けた裂片の縁がフリル状になる. D, センシゴケ *Menegazzia terebrata*. 表面に丸い孔がある. E, コフキチヨロギウメノキゴケ *Myelochroa metarevoluta*. 裂片の先端の近くに粉芽塊ができる. F, コフキヂリナリア *Dirinaria applanata*. 裂片の幅が狭く, 基物の樹皮に密着する.

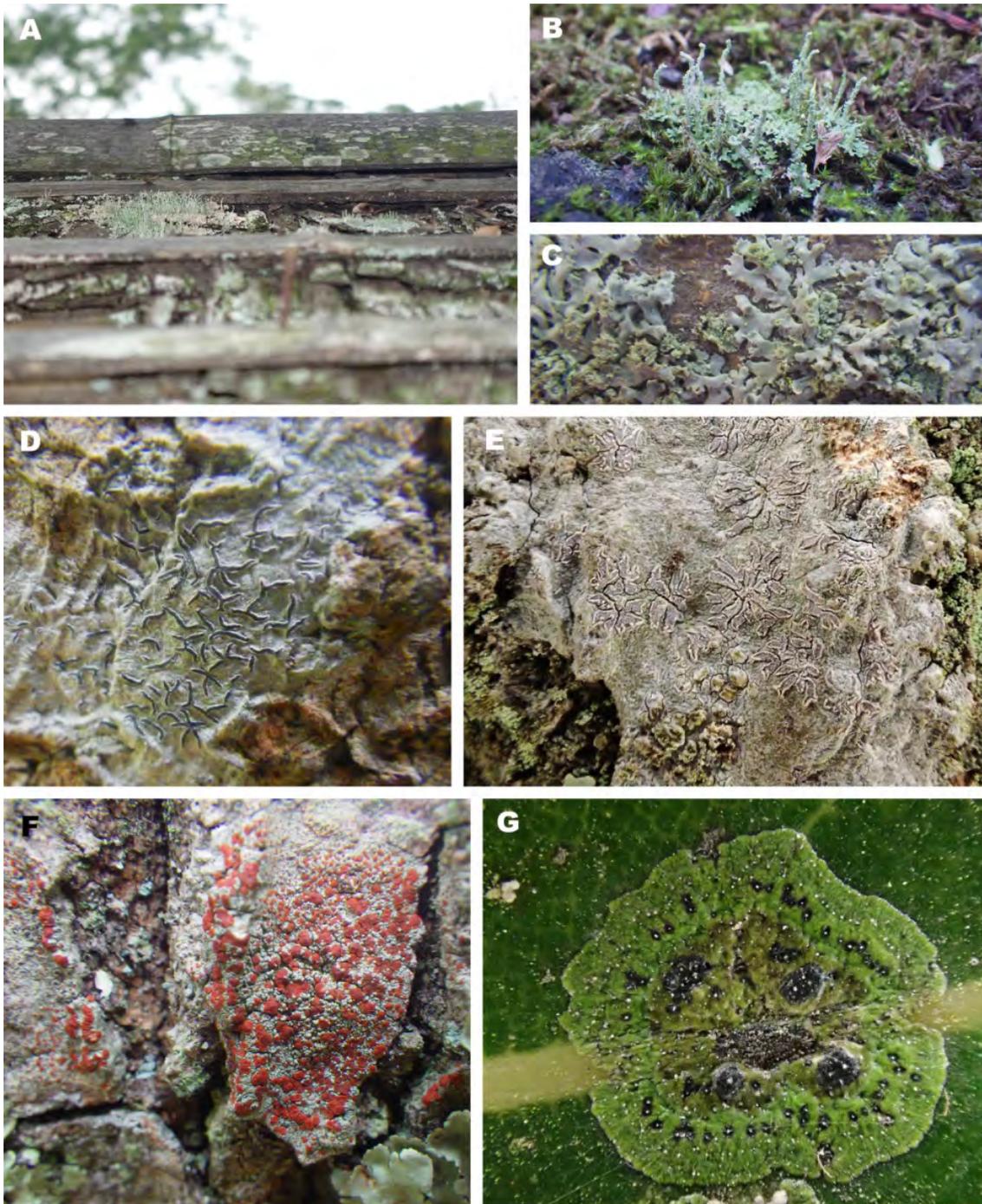


図2. 様々な樹状 (A & B)・葉状 (C)・痂状地衣 (D-G). A, 掲示板上の板葺屋根に生えるヒメレンゲゴケ *Cladonia ramulosa* など. B, 地上に生えるヒメレンゲゴケ. C, 樹幹上のムカデコゴケ *Physciella melanchra*. D, モジゴケ属 *Graphis* sp. 黒い線状の子器. E, コフキモジゴケ *Phaeographis pruinosae*. 子器は灰白色. F, ニセザクロゴケ属の一種 *Rombaldia* sp.. 橙赤色の子器が鮮やか. G, タブノキの葉に着生するアオバゴケ *Strigula smaragdula*.

調査記録

鳥類の冬なわばり数(2014年度)																			
藤村 啓(公益財団法人 日本野鳥の会)まとめ ボランティア・レンジャーなど職員																			
調査場所 横浜自然観察の森園内全域																			
調査日 2014年9月～2015年3月																			
調査開始	1998年	次年度 継続	終了予定 一年																
<p>調査目的 鳥類の種組成や個体数を指標として環境の変化をモニタリングする。</p> <p>調査方法 秋～冬になわばりを作るモズ、ジョウビタキ、ルリビタキの3種について、横浜自然観察の森友の会ボランティアに呼びかけて、目視により確認された位置を自然観察センター内に掲示した地図に種ごとにシールを貼ってもらい記録した。これを種ごとに集計し、なわばり数を推定した。本調査は、1998年から継続して行っている。</p> <p>調査結果 園内になわばりを作っていたのは、モズのオス0-2羽、メス2-4羽、合計2-6羽であると推定された。ジョウビタキはオス0羽、メス3羽、合計3羽であると推定された。ルリビタキはオス1-4羽、メス1-3羽、合計2-7羽であると推定された(表1)。 今年度は、昨年に続き、ジョウビタキのオスの記録がなかった。ルリビタキが調査開始当初は確認されていたが、1月以降定着していると思われる個体が見られなかった。モズはアキアカネの丘、ピクニック広場周辺の記録が前年と比べ減少した。減少の理由として、ピクニック広場及びタンポポの道⑪-⑫-⑬間において、平成26年10月7日から開始された朝比奈調整池耐震補強工事の影響が考えられる。</p> <p style="text-align: center;">表1. 対象種3種の推定個体数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種名/雌雄</th> <th>オス</th> <th>メス</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モズ</td> <td>0-2(0)</td> <td>2-4(1-2)</td> <td>2-6(1-2)</td> </tr> <tr> <td>ジョウビタキ</td> <td>0(0)</td> <td>3(0-1)</td> <td>3(0-1)</td> </tr> <tr> <td>ルリビタキ</td> <td>1-4(1)</td> <td>1-3(0)</td> <td>2-7(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※カッコ内は2013年度の結果</p>				種名/雌雄	オス	メス	合計	モズ	0-2(0)	2-4(1-2)	2-6(1-2)	ジョウビタキ	0(0)	3(0-1)	3(0-1)	ルリビタキ	1-4(1)	1-3(0)	2-7(1)
種名/雌雄	オス	メス	合計																
モズ	0-2(0)	2-4(1-2)	2-6(1-2)																
ジョウビタキ	0(0)	3(0-1)	3(0-1)																
ルリビタキ	1-4(1)	1-3(0)	2-7(1)																

鳥類ラインセンサス(2014年度)	
掛下尚一郎(公益財団法人 日本野鳥の会)	
調査場所	自然観察センター→ヘイケボタルの湿地→コナラの道 →カシの森→ミズキの谷→モンキチョウの広場→自然観察センター
調査日	2014年4・5・6・10月、2015年1・2・3月の各月2回の計14回
調査開始	1986年 次年度 継続 終了予定 一年
調査目的	
鳥類の種組成や個体数を指標として環境の変化をモニタリングする。	
調査方法	
繁殖期(4・5・6月)・秋の渡り期(10月)・越冬期(1・2月)・春の渡り期(3月)の時期に、月2回(上旬・下旬)、約2.3kmのコースを時速約2kmで歩きながら、道の片側50mずつ、両側100mの範囲内で確認された鳥類の種名と個体数を記録した。本調査は、1986年から継続して行っている。	
調査結果	
2014年度の調査では46種(外来種のコジュケイ、ガビチョウの2種を含む)の鳥類が確認された(生物リスト表1)。種の配列は日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012)に従った。	
月ごとの平均個体数{(上旬に確認された個体数+下旬に確認された個体数)/2}を比較すると、最も多かったのは10月であった。年間を通して個体数が多かった種は多い順にヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ウグイスであった(表2)。これらは、本調査の季節的な出現状況から留鳥と考えられるが、ヒヨドリは10月が最も多く、季節的な移動(渡り)途中の個体も含んでいると思われる。メジロ、シジュウカラは4月、ハシブトガラス、ウグイスは5月に最も多い個体数が記録された。	
繁殖期に個体数の上位5種を占めたのは、多い順にメジロ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラであった(表2)。前年度に比べウグイスが1/3以下に減少したのをはじめ、ヒヨドリ、シジュウカラも減少した。一方、メジロ、ハシブトガラスが増加した。	
越冬期についてみると、ヒヨドリ、アオジ、メジロ、シジュウカラであった。越冬期では、順位の変動はあったが上位4種は変わりがなかった。平均個体数ではアオジが前年並みであった以外の3種は半数に減少したが、2年前に比べると大幅な減少ではなかったため、年による変動の範囲内と思われる。	

スズメは全国的な減少傾向が報告されており、2009 年度以降、園内のスズメの減少が示唆されているが、2012、2013 年度と園内では繁殖期の記録数が増加しており、平均個体数は2014 年度も昨年ほどではないが、2013 年度を上回る数を記録した(表3)。引き続き推移を注視すべきと思われる。

表2.鳥類ラインセンサス調査における平均個体数の順位(多い順)

繁殖期(4-6月)			越冬期(1-2月)			年間			
順位	種名	平均個体数	順位	種名	平均個体数	順位	種名	平均個体数	留鳥
1	メジロ	37.0	1	ヒヨドリ	23.0	1	ヒヨドリ	19.9	●
2	ハシブトガラス	19.8	2	アオジ	13.5	2	メジロ	15.8	●
3	ヒヨドリ	19.2	3	メジロ	11.5	3	ハシブトガラス	7.5	●
4	ウグイス	15.8	4	シジュウカラ	8.0	4	シジュウカラ	7.2	●
5	シジュウカラ	14.8	5	マヒワ	7.8	5	ウグイス	6.6	●
6	ヤマガラ	10.0	6	シメ	6.3	6	ヤマガラ	4.3	●
7	スズメ	9.8	7	エナガ	5.8	7	アオジ	4.1	
8	ガビチョウ	7.2	8	コゲラ	5.8	8	エナガ	4.1	●
9	コジュケイ	6.8	9	カワラヒワ	5.3	9	ガビチョウ	3.8	●
10	エナガ	4.7	10	ウグイス	5.0	10	コジュケイ	3.0	●
11	コゲラ	4.3	11	ハシブトガラス	4.8	11	コゲラ	2.7	●
12	アオジ	4.2	12	クロジ	4.5	12	スズメ	2.6	●
13	ヒレンジャク	3.3	13	シロハラ	3.8	13	カワラヒワ	1.8	●
14	カワラヒワ	2.7	14	ヤマガラ	3.5	14	シメ	1.8	
15	ハシボソガラス	2.5	15	ウソ	3.3	15	クロジ	1.5	
16	シメ	2.0	16	ガビチョウ	2.8	16	マヒワ	1.3	
17	クロジ	2.0	17	コジュケイ	2.3	17	アオゲラ	0.9	●
17	キビタキ	2.0	18	ツグミ	1.0	18	ハシボソガラス	0.9	●
17	ヤブサメ	1.5	19	アオゲラ	0.8	19	ヒレンジャク	0.8	
20	センダイムシクイ	1.5	20	カケス	0.8	20	キビタキ	0.7	
20	アオゲラ	1.5	21	キジバト	0.8	21	シロハラ	0.6	
20	オオルリ	1.3	22	アカゲラ	0.5	22	キジバト	0.6	●
23	ツバメ	0.8	23	オシドリ	0.5	23	ウソ	0.5	
24	キジバト	0.7	24	カワセミ	0.5	24	センダイムシクイ	0.4	
25	カワセミ	0.7	25	スズメ	0.5	25	ヤブサメ	0.4	
26	ホトギス	0.5	26	ハシボソガラス	0.5	26	オオルリ	0.3	
27	ホオジロ	0.5	27	オオタカ	0.3	27	モズ	0.3	
28	ヒメアマツバメ	0.5	28	カワウ	0.3	28	カワセミ	0.3	●
29	ムクドリ	0.3	29	ミサゴ	0.3	29	ツグミ	0.3	
30	ツグミ	0.3				30	トビ	0.3	
31	ハクセキレイ	0.2				31	ツバメ	0.2	
32	トビ	0.2				32	ホオジロ	0.2	●
33	アカハラ	0.2				33	カケス	0.2	
34	アオバト	0.2				34	アカゲラ	0.1	
						35	ヒメアマツバメ	0.1	
						36	ホトギス	0.1	
						37	オシドリ	0.1	
						38	ムクドリ	0.1	●

表3 スズメの平均確認個体数(2004~2014 年度)

年度\月	4月	5月	6月	10月	1月	2月	3月	年度 平均値(羽)
2004	2.0	14.5	27.5	1.0		1.0	2.0	6.9
2005		31.5	12.0	0.5		1.0		6.4
2006	4.5	22.0	14.5	1.0	1.0	8.0	3.0	7.7
2007	0.5	7.0	26.0	1.0			2.5	5.3
2008		4.0	1.0				1.5	0.9
2009		9.0	7.5	10.0	0.5	1.5	3.0	4.5
2010		0.5	1.5			1.5	0.5	0.6
2011	1.0	1.0	3.0				1.5	0.9
2012		10.5	6.0			0.5	1.0	2.6
2013	1.5	44.0	25.5	2.5	1.0	1.5		10.9
2014	2.5	16.0	11.0	0.0	0.5	0.5	1.0	4.5

引用した本・文献

日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田市. 438p.

月別鳥類出現率記録調査(2014 年度)	
藤村 啓・掛下尚一郎(公益財団法人 日本野鳥の会)まとめ ボランティア・レンジャーなど職員	
調査場所	横浜自然観察の森園内全域
調査日	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 (休館日を除く)
調査開始	1986 年 次年度 継続 終了予定 一 年
調査目的	
<p>鳥類の種組成を指標として、環境の変化をモニタリングするためには、月 2 回のラインセンサス法だけでは、記録できない種があるため、補充調査としておこなった。また、季節の生物情報として、一部の情報をカード化して展示した。</p>	
調査方法	
<p>休館日以外の毎日、レンジャーと横浜自然観察の森友の会会員等のボランティアにより園内で確認された鳥類の種名を 1 日ごとに記録した。本調査は、ラインセンサスだけでは記録できない種があるため、1986 年からラインセンサスの補充調査として行っている。観察場所には関谷奥見晴台を含んでいる。</p>	
調査結果	
<p>得られた記録を集計し、月別に出現率をまとめた (生物リスト表 2)。種の配列は日本鳥類目録改訂第 7 版 (日本鳥学会 2012) に従った。(休館日である毎週月曜日、月曜が祝日である場合は翌日、年末年始の 12 月 28 日から 1 月 5 日の記録は含めていない。)</p> <p>2014 年度に確認できた鳥類の種数は 92 種 (うち外来種 3 種) であり、前年度の 89 種 (うち外来種 3 種) と比べると 3 種増加した。前年度と今年度確認された種について、年間出現率(12 ヶ月の出現率の合計/12)の増減を比較すると、全 92 種中 59 種で増加傾向を示した (生物リスト表 2)。年間出現率に★をつけた種が増加した種である)。</p> <p>2014 年度は、来園者から、従来は未記録であったコミミズクについて、下記記録が寄せられた。写真記録により種の同定が正しいことが確認できたため、今回の記録に含めた。</p>	

コミミズク (フクロウ科)

観察日時 2014年10月12日 13時

観察場所 ノギクの広場上空

観察者 石塚新一氏

引用した本・文献

日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田市. 438p.

鳥類標識調査(2014年度)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
清水 武彦(横浜自然観察の森友の会) 他 下記調査協力員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
調査場所 横浜自然観察の森(観察センター脇の雑木林:生態園)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
調査日 2014年4月12日 - 2015年3月14日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
調査開始 2006年 次年度 継続 終了予定 - 年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<p>調査目的 横浜自然観察の森内における鳥類生態(中継・越冬・居住等)の把握。</p> <p>調査方法 かすみ網を使用して鳥類を捕獲し、足環装着/確認・測定・記録後に放鳥。 (山階鳥類研究所認定の鳥類標識調査員が環境省の許可に基づき実施。) 7:00-16:30の間、45~60分毎に回収・記録・放鳥を実施。(網位置:参考データ参照)</p> <p>調査結果 4月から延12日調査:17種87羽を放鳥。表1に放鳥結果を示す。 調査日数が昨年度より増えて放鳥種・数とも増加。調査開始からの累計が26種661羽となった。</p> <p>表1. 14年度放鳥結果(種名は回収順。上段:新放鳥、下段:再放鳥)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th colspan="4">14</th> <th colspan="4">15</th> <th colspan="4"></th> <th>計</th> </tr> <tr> <th>月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>9</th> <th>11</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>1</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th></th> </tr> <tr> <th>日</th> <th>12</th> <th>18</th> <th>27</th> <th>8</th> <th>24</th> <th>7</th> <th>27</th> <th>9</th> <th>18</th> <th>31</th> <th>11</th> <th>14</th> <th></th> </tr> <tr> <th>天気/種名</th> <th>晴</th> <th>晴</th> <th>曇</th> <th>曇</th> <th>曇</th> <th>晴</th> <th>晴</th> <th>晴</th> <th>晴</th> <th>晴</th> <th>晴</th> <th>曇</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メシロ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>ススメ</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>キビタキ</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>クロシ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ウグイス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>シロハラ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ルリビタキ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ヒヨドリ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>シショウカラ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コケラ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>アオケラ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>モス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>アオシ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>コシユケイ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>シメ</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>カビチョウ</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>エナカ</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td></td> <td>72</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>														年	14				15								計	月	4	5	9	11	11	12	12	1	1	1	2	3		日	12	18	27	8	24	7	27	9	18	31	11	14		天気/種名	晴	晴	曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇		メシロ	1	1		1	2	13	8	2					2	30	ススメ		1					2	3	1					6	キビタキ			1											1	クロシ				1					1					2	ウグイス				1	1	1	1	2						6	シロハラ					2	1	1	2						3	ルリビタキ						1	1		1					4	ヒヨドリ				1	1	2	1	1	1	3	1			2	シショウカラ							2	1	1	3	1			9	コケラ							1			5		1		6	アオケラ								1					1	1	モス									1					0	アオシ									1	2				3	コシユケイ									1					0	シメ											1	1		2	カビチョウ												1		1	エナカ												2		2	計	1	2	1	3	6	17	12	7	5	10	2	6		72		0	0	0	0	1	1	4	5	2	0	1	1		15
年	14				15								計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
月	4	5	9	11	11	12	12	1	1	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
日	12	18	27	8	24	7	27	9	18	31	11	14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
天気/種名	晴	晴	曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
メシロ	1	1		1	2	13	8	2					2	30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ススメ		1					2	3	1					6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
キビタキ			1											1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
クロシ				1					1					2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ウグイス				1	1	1	1	2						6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
シロハラ					2	1	1	2						3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ルリビタキ						1	1		1					4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ヒヨドリ				1	1	2	1	1	1	3	1			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
シショウカラ							2	1	1	3	1			9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
コケラ							1			5		1		6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
アオケラ								1					1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
モス									1					0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
アオシ									1	2				3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
コシユケイ									1					0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
シメ											1	1		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
カビチョウ												1		1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
エナカ												2		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計	1	2	1	3	6	17	12	7	5	10	2	6		72																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	0	0	0	0	1	1	4	5	2	0	1	1		15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
調査協力員:布廣 秀雄、掛下 尚一郎他観察の森レンジャー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

- (1)メジロ・ウグイス・シジュウカラが例年通り多く捕獲された。尚、ウグイスの捕獲数が減少したままで、周辺の藪の減少の影響か様子を見ていく必要がある。
- (2)9月に網を増設(参考データ参照)。日当たりの少ない藪でシロハラ・ヒヨドリが多く捕獲された。
- (3)アオゲラ・モズ・コジュケイ・シメが初捕獲。また、センター改修前に捕獲されていて、改修後は捕獲がなかったクロジ・コゲラ・エナガも久しぶりに捕獲された。
- (4)再捕獲は6種15羽と増えたが、1シーズン前の個体の再捕獲(Rt)はルリビタキ(345日)の1羽だけで、改修前に増加していた1シーズン以上前の個体の再利用確認がまだ少なかった。
- (5)冬鳥が少なくヒタキ科の捕獲数が減少したまま。

所感

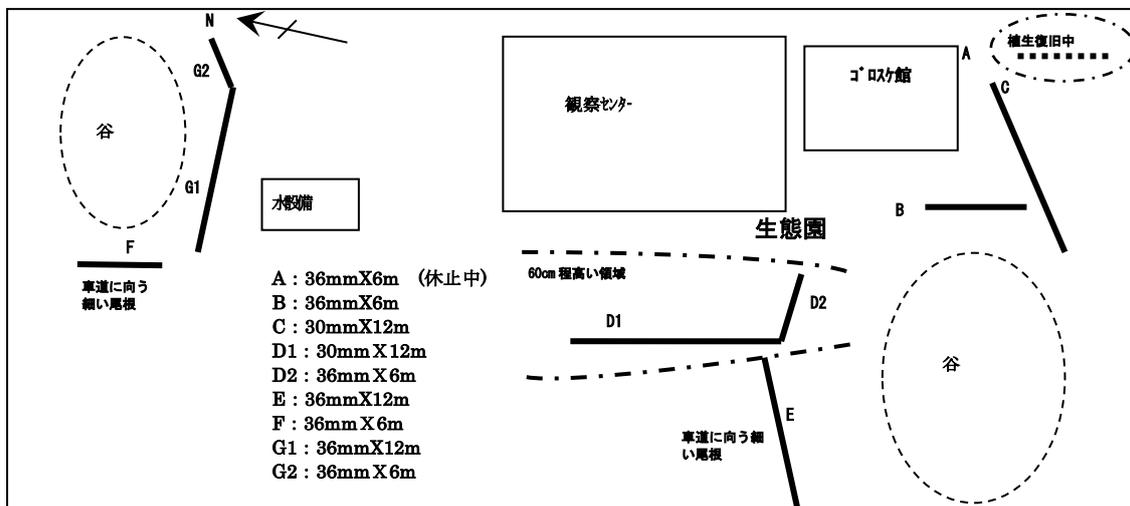
観察センター周辺の雑木林の状態が毎年変化しており、上記の様な観察結果の変化が出てきたので、次年度も植生復旧に伴う周辺の環境変化を見ながら調査を継続していきたい。

ガビチョウの増加でウグイスが減らなければよいのですが！

参考データ：調査場所(網位置概略)と放鳥結果(代表3種：メジロ、ウグイス、シジュウカラ)

9月にF,G網を増設。今迄のA-E網と捕獲される種が異なるようなので来年度以降も継続予定。

センター4改修後にD1網の捕獲数減少。B-D2間、D1-センター間の藪が小さくなった影響か継続観察中。



種類	網	06	07	08	09	10	11	12	13	14
メシロ	A	3	4	0	15	3	2	休	休	休
	B	1	休	休	6	1	2	2	1	4
	C	29	12	8	33	7	7	21	12	23
	D1	—	23	14	29	19	休	5	0	8
	D2	—	—	2	2	0	休	0	1	0
	E	—	—	—	—	1	休	0	0	1
	F	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	G1	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	G2	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	ウグイス	A	1	5	2	7	2	2	休	休
B		2	休	休	3	0	0	0	2	2
C		4	10	6	6	10	4	3	4	4
D1		—	6	4	0	4	休	1	0	1
D2		—	—	1	0	0	休	0	0	0
E		—	—	—	—	0	休	0	0	0
F		—	—	—	—	—	—	—	—	0
G1		—	—	—	—	—	—	—	—	1
G2		—	—	—	—	—	—	—	—	1
シジュウカラ		A	0	1	2	1	1	0	休	休
	B	0	休	休	0	0	0	0	0	3
	C	3	6	4	1	3	2	3	0	2
	D1	—	8	11	2	3	休	0	0	0
	D2	—	—	4	3	0	休	0	1	0
	E	—	—	—	—	1	休	1	2	2
	F	—	—	—	—	—	—	—	—	0

*本調査は、環境省が山階鳥類研究所に委託して行う鳥類標識調査の一環として行った。

横浜自然観察の森鳥類相調査(2014 年度)	
板垣昭平・大浦晴壽・加藤みほ・齋藤芳雄・佐々木祥仁・鳥山憲一・廣瀬康一・ 平野貞雄・渡辺美夫 (横浜自然観察の森友の会 カワセミファンクラブ)	
調査場所 横浜自然観察の森 園内全域	
調査日 2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日	
調査開始	2011 年 次年度 継続 終了予定 一年
<p>調査目的 横浜自然観察の森域内に生息、滞在する鳥種を確認、記録し、その実態を明らかにすると共に、長期の観察を継続する事で、その推移を追跡する事を目的とする。</p> <p>調査方法 徒歩で域内を調査し、目視もしくは囀り、地鳴き、または撮影画像により、確信的に種名を特定できた鳥種を記録する。調査者が確認できなくとも他のメンバーが日時を特定できる撮影画像、録音などで記録を残してあれば採用し記録した。 調査のルートは特定されていないが、可能な限り域内全域(長倉口～アキアカネの丘～関谷奥見晴台～ノギクの広場)の遊歩道を歩いた。ただし、尾根道(コナラの道⑬～⑳)については初夏以外の期間の調査頻度は低い。 調査時間は2～6時間の範囲で振れているが、基本的に朝から午前中までの調査とした。</p> <p>調査結果 調査結果は半期毎にまとめ、上期分(2014 年 4 月～9 月)は生物リスト表 3 に、下期分(2014 年 10 月～2015 年 3 月)は生物リスト表 4 に示した。鳥種は日毎にリスト化し、最下段に期毎の確認率(10 日調査に入り、その内 5 日確認できた鳥の確認率は 50%)を示した。 上期に確認できた鳥種は 65 種、下期では 69 種でした。(通期では 80 種)</p>	

オオムシクイ <i>Phylloscopus examinandus</i> の観察記録			
佐々木祥仁(横浜自然観察の森友の会 カワセミファンクラブ)			
調査場所	モンキチョウの広場東屋付近		
調査日	2014年 6月 8日		
調査開始	— 年	次年度 —	終了予定 — 年
<p>調査目的 5月末～6月上旬に日本列島を通過していくオオムシクイ <i>Phylloscopus examinandus</i> を観察し記録を残すこと</p> <p>調査方法 10倍双眼鏡による目視の他、78mm口径望遠鏡＋30倍接眼レンズデジスコシステムによる写真及び動画撮影による記録</p> <p>調査結果 2014年6月8日9:10頃、モンキチョウの広場東屋後方の法面付近から聞こえる「ギッ、ギギッ、ギギッ、ジョジョリジョジョリ」という鳴き声を確認。 しばらく断続的に鳴き声は聞こえていたが、目視はできず。 9:27、枝にとまっている姿を確認。撮影にも成功。2羽と思われたが確実に姿を捉えたのは1羽のみ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下面はメボソムシクイより黄色味が少なくほとんど白色に見えた。(図 1)またセンダイムシクイに見られるような頭中央線は見られなかった。(図 2) ・鳴き声は、「ギッ、ギギッ・・・」という部分が長く、「ジョジョリジョジョリ」の部分は付け足す程度の抑揚のない鳴き方で、「ジョジョリジョジョリジョジョリ」とだんだん尻上がりになっていくメボソムシクイとは異なる鳴き方であった。 ・季節的にもオオムシクイが日本を通過していく時期と重なる <p>以上によりオオムシクイと識別した。約20秒の動画(音声記録)もあり</p>			
			
図 1. 下面の様子		図 2. 頭頂部の様子	